

[基準4] 教育内容・方法・成果

1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

1 現状の説明

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか

<大学全体の教育目標>

本学は「権利自由・独立自治」という建学の精神に基づき、「個を強くする大学」を理念とし、「世界へ-『個』を強め, 世界をつなぎ, 未来へ-」「知の創造と人材の育成を通し, 自由で平和, 豊かな社会を実現する」を使命としている【参照: 基準1】。これら建学の精神, 理念, 使命は, 創立130周年を契機に, 当面10年後の本学の将来像(ビジョン)を示すものとして策定した「明治大学グランドデザイン 2020-ビジョンと重点施策-」(2011年3月9日開催学部長会承認)において再確認されたものである。本学の教育目標は, このグランドデザインにおける「2. 全学のビジョン—(1) 教育」に, 「国際的に通用する多彩な個性と, 自由と自治の精神を有する人材を養成する」と明示し, 以下のとおり掲げている【4(1)-1-1】。

「2. 全学のビジョン—(1) 教育」

建学の精神に基づき「強い『個』を育成する」を教育の役割として, 以下に掲げる事項を実践することにより, 国際的に通用する多彩な個性と, 自由と自治の精神を有する人材を養成し, 多様な国籍の学生が交流する, 世界に誇る教育力のある大学となります。

- 1 研究力に裏付けられた専門教育を提供します。
- 2 全学的な教養教育基盤の整備による初年次教育, 教養教育を提供します。
- 3 ICTの活用により, いつでもどこでも学べるユビキタス教育を提供します。
- 4 フィールドスタディ, 問題解決型教育等の実践型教育, 少人数教育により強い「個」を育てます。
- 5 地域, 文化, 世代, 障がいを超えた多様な人々が学びあう教育環境を提供します。
- 6 学際的, 社会的課題に対応できる人材を輩出します。
- 7 次代の学界を担う世界で通用する研究者を養成します。
- 8 生涯教育の機会を提供し, 高度専門職業人を養成します。

<学部・研究科における「教育目標」及び「学位授与方針」の設定>

上記の教育目標である「2. 全学のビジョン—(1) 教育」を達成するため, 各学部では学科ごとに, 各研究科では研究科及び専攻ごとに, 「人材養成その他教育研究上の目的」を大学学則別表9【4(1)-1-2】及び大学院学則別表4【4(1)-1-3】に定め, これに基づき

各学部，各研究科では学位授与方針を定めている【4(1)-1-4】。

授与する学位は「学位規程」に規定している【参照：基準4（4）】。学部の学位授与方針は、「目指すべき人材像」と「そのための具体的到達目標」で構成され、「目指すべき人材像」において「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果」を明示し、「そのための具体的到達目標」において「その達成のための諸要件」を明示している。研究科の学位授与方針についても、「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果」と「その達成のための諸要件」を明確に示している。

これら教育目標や学位授与方針に沿った本学の教育内容，方法について，広く社会に向けて大学ガイドブック，大学院ガイドブック，各学部ガイドを作成し【4(1)-1-5～7】，学部長の言葉や図表を用いた解説によって分かりやすく提示しており，また在学生には在学期間にわたって参考とするべき学籍や履修に関する規則を明示した便覧を入学時に提示し【4(1)-1-8】，さらに個々の授業科目の内容については毎年度シラバスによって示している【4(1)-1-9】。加えて，学位取得に向けて適切な履修が可能となるよう毎年度時間割を作成している【4(1)-1-10】。

なお，2013年度に学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の内容をより分かりやすい表現にするため，学部及び研究科で表記の確認を行っており，2013年11月に学内手続きを終え，2014年度から確認後の方針を公表することとなっている【4(1)-1-11，12】。ポリシーの確認については「教学事項の審議の際にあわせて毎年度確認を取り，その結果を議事録に残す」よう全学的ルールを取り決めており，毎年各学部・研究科において教育目標，学位授与方針に基づき見直しを行っている。

（2）教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか

① 教育課程の編成・実施方針の明示

<教育課程の編成・実施方針の明示>

大学全体の教育目標である「2. 全学のビジョン—（1）教育」及び各学部・各研究科の学位授与方針に沿って，学部・研究科ごとに教育課程の編成・実施方針を明示している【4(1)-1-1，13】。

学部の教育課程の編成・実施方針は，「教育課程の理念」「教育課程の構成」「教育課程の特長」の3項目で構成している。「教育課程の理念」において，教育課程の目指す方向性を示し，「教育課程の構成」において，教育内容に関する基本的考え方と教育方法に関する基本的考え方を示している。加えて「教育課程の特長」において，特色ある教育課程や授業方法について説明している。研究科の教育課程の編成・実施方針についても，教育内容及び教育方法に関する基本的考え方を示している。

本学では教養的教育科目と専門的教育科目の両方を，学部の教育課程の一環としてバランスよく配置しているが，学部の教育課程を補完するために，各学部の学生が共通で履修

できる科目として，総合講座，情報関係科目等の全学共通の科目及びグローバル人材の育成に関わる科目等を設置している。

<総合講座や情報関係科目等の全学部生が共通して履修できる科目の編成・実施方針>

本学の教育目標である「国際的に通用する多彩な個性と，自由と自治の精神を有する人材を養成する」ために，学部間共通の科目として，以下のような科目群を編成している。学生の学問的視野を広げて問題発見能力や判断力を養うために「学部間共通総合講座」を開講している【4(1)-1-14】。この科目群には，初年次教育に資するための「図書館活用法」等の科目，キャリア形成支援科目としての「インターンシップ概論」等の科目，問題解決能力を養うために実習や協同学習を重視した「シェイクスピアを上演しよう」等の科目を置いている。

また，所属学部では設置されていない語学科目を「共通語学科目」として設置し，履修の機会を提供している。選択体育実技科目は，学部を超えて，幅広い種目の中から興味ある種目や所属学部では設置されていない種目について，履修の機会を提供している。共通語学科目（ロシア語・スペイン語）は，学部間共通外国語科目とは別の学部設置科目であり，選択体育実技科目ともに，実質的には，複数の学部が利用する形態（いわゆる相乗り科目）のため，管理運営方法を再検討する必要がある【4(1)-1-15, 16】。

情報関係科目の編成・実施方針については，高校の「情報」教科で十分な成果を上げられなかった学生を対象としたエレメンタリー階層，ICTの基礎やPCの基本操作，情報倫理等を基礎的な内容の基本階層，統計解析やデータベース等の応用的な内容の応用階層，エレメンタリー階層から応用階層までを横串的に学び，最終的にはプレゼンテーションを実施できるようにする総合発展階層の4階層の科目編成とし，エレメンタリー階層の科目から，総合発展階層の科目へステップアップしていく段階的科目構成としている。【4(1)-1-17】

基本階層の科目であるICTベーシックⅠでは，履修した学生が最低限習得すべき項目を示した「アクティブ・ミニマムリクワイアメント」を設定している。これによって，どの教員で履修しても，最低限習得すべき知識レベルを保証できるようにしている。【4(1)-1-18】

また，Web上で受けられる情報関係科目実力確認テストを用意し，これによって学生自身で自分の知識レベルと情報関連科目の各科目で要求される知識レベルを確認し，自分がどの階層の科目を受講するのに適しているか判断することができるようにしている【4(1)-1-19】。これらの科目の編成・実施方針は，本部のホームページおよび情報関係科目シラバスに掲載している【4(1)-1-20】。

この他，教員や学芸員等の資格取得を希望する学生のための「資格課程科目」【4(1)-1-21】，留学生の日本語能力の向上と日本文化を体得するための「日本語・日本事情・留学生共通日本語（選択日本語）」を設置しており【4(1)-1-22】，大学院においても，大学院学生が国際的な学術に触れ，学際的な能力を涵養するために「研究科間共通科目」を設置している【4(1)-1-23】。

<グローバル人材育成を目的とした全学部生が共通して履修できる科目の編成・実施方針>

グローバル人材を育成する全学部共通プログラムとして，本学には4つのプログラムがあり，2012年度までは，プログラムごとにシラバスを作成していた。しかしながら，明治大学内の「グローバル人材育成」に関する科目はまとまっていなかったため，2014年に各プログラムを「GLOBAL NAVI 2014」という形で同一冊子にし，各プログラムの設置趣旨及び目的を明示し，各プログラムのキーワードとともに掲載した。これにより各プログラムの目的をより効果的に明示することができている【4(1)-1-24】。

グローバル人材を育成する科目群としては，より多面的な語学能力の向上と海外留学を目指す学生を支援するための「学部間共通外国語科目」（「海外英語研修」の一部を含む）【4(1)-1-25】がある。また，世界的視野を持ち，国際舞台で活躍できる人材を育成するための「国際教育プログラム」，「グローバル人材育成プログラム科目（カリフォルニア大学デービス校等への海外研修科目含む）」，「日本・ASEAN相互理解プログラム科目（ホーチミン市国家大学等への海外研修科目含む）」，「国際協力人材育成プログラム科目（立教大学・国際大学共同プログラム）」を設置している。さらに各学部が学部の専門性を発揮して主催している「短期留学プログラム」がある【4(1)-1-24：131頁～140頁】他，さらに全学単位の協定留学・認定留学に加え，学部独自の長期留学の制度を数多く設けている【4(1)-1-24：145頁～148頁】。この他にも語学力を高め，正規留学を誘引するために国際連携機構国際教育センターが「短期海外語学研修」を6言語について9か国14大学（2013年度実績）で募集を行っており【4(1)-1-26】，国際的に通用する多彩な個性の育成に資する教育課程を編成している。

<ユビキタス教育の推進に関わる方針>

教育のユニバーサル・アクセスを実現するために「ユビキタスカレッジ運営委員会」の下で，（1）新しい教育方法としてのメディア授業（eラーニング）や遠隔教育の発展・定着，（2）世界に向けて明治大学の教育研究の発信，（3）教育のユニバーサル・アクセスの推進，（4）eラーニングによる学習支援の充実と教員への教育支援の充実，（5）次世代の大学教育を支援する体制の確立，という5つの基本方針に基づき推進している【4(1)-1-27】。eラーニングの本格稼働を本学において担いつつ，先駆的で柔軟な教育方法を先行的に試行して，学習成果を検証しながら，次世代に向けた新しい教育制度・方法の確立を目指している【4(1)-1-28～31】。

② 学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関

<学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関>

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については，各学部教授会，各研究科委員会を責任主体として制定，検証されており，両方針は連関して審議されている。学部では，各学部教授会で変更の承認を経た上で，教務部長（教務担当副学長兼務）が委

員長となる全学的な審議機関の教務部委員会に報告することとなっている。さらに，教授会審議にあたって変更内容を事前に教務部長が確認することによって，全学的な視点から検証を行っており，連関を担保している【4(1)-1-32】。しかし，これら方針に沿って学生が学んでいるのか，学びの実態との整合については検証する制度が確立されていないので，今後の課題である。

各学部，各研究科の教育目標でもある「人材養成その他教育研究上の目的」，そして「学位授与方針」及び「教育課程の編成・実施方針」の周知と公表については，大学ホームページで広く社会に公表している【4(1)-1-4，4(1)-1-13】。なお，ホームページは各方針とあわせて卒業や修了認定基準，カリキュラム概要や履修モデル等の関連する詳細項目を公開し，利用者が情報を把握しやすいように作成している。その他，学生には，各学部・各研究科シラバスや便覧に掲載し，年度初めのガイダンスで説明するなどして周知を図っている。

教員については，各学部教授会，各研究科委員会において毎年度見直しを行うことから，これら目的や方針を共有する機会となっている。

（3）教育目標，学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が，大学構成員（教職員及び学生等）に周知され，社会に公表されているか

教育目標の周知と公表について，教育目標として「2. 全学のビジョン（1）教育」を明示している「明治大学グランドデザイン」は，大学ホームページで広く社会に公表している【4(1)-1-1】。さらに教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針を公表しているものの，自己点検・評価全学委員会が実施した「2013 年度明治大学「学修環境に関するアンケート」（拡大試行版）集計結果報告書」では，所属学部の教育目標は，「知っている・だいたい知っている」を併せても 48.5%の認知度となっている。3 つのポリシーにいたっては，26.6%であり，周知方法の改善が必要である。【4(1)-1-33：63-71 頁】

各学部，各研究科の教育目標でもある「人材養成その他教育研究上の目的」，そして「学位授与方針」及び「教育課程の編成・実施方針」の周知と公表については，大学ホームページ及び大学院ガイドブックで広く社会に公表している【4(1)-1-4,6】。なお，ホームページは各方針とあわせて卒業や修了認定基準，カリキュラム概要や履修モデル等の関連する詳細項目を公開し，利用者が情報を把握しやすいように作成している。その他，学生には，各学部・各研究科シラバスや便覧に掲載し，年度初めのガイダンスで説明するなどして周知を図っている。また，教員については，各学部教授会，各研究科委員会にて毎年度見直しを行うことから，これら目的や方針を共有する機会となっている。各学部別の周知の状況は，「学修環境に関する学生アンケート」によって現状を把握できている。

事務職員については毎年度，新任職員研修において，教育目標であるグランドデザインと3つのポリシーの関係性について詳細に解説し，教育課程をマネジメントするにあたっての素養を育成している【4(1)-1-34】。しかし，新任以外の既存の職員については，周知

や理解促進のための機会がない。

(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか

教育目標の検証は, 学長室専門員長が責任主体となる「学長室自己点検・評価報告書」の作成時に「学長スタッフ会議」において行うこととしているが, 現在, 教育目標を明示している「グランドデザイン 2020」の検証サイクルは未確定であり, 同報告書においても, 課題を明示しているのみで, 全学的な教育目標の検証は行われていない。

ただし, 2012年度報告書には「教育の質保証」や, 「教育環境 (授業科目数, セメスター制度等)」の観点から点検・評価を行った【4(1)-1-35】。この「学長室自己点検・評価報告書」は, 全学的な改善提案を行う「自己点検・評価 評価委員会」の「評価委員による評価結果 (大学への提言)」と合わせて, 「2014年度学長方針」の策定に参考とされた。さらに, 2012年度の「評価委員による評価結果 (大学への提言)」では「大学院の国際化と教育研究環境の整備」や, 「国際比較や学外者の視点を活用した検証システムの運用」等の指摘を受けており, これらも「2014年度学長方針」に「大学院のグローバル化」や「IR (Institutional Research) の構築」を加える等の改善を行った【4(1)-1-36】。

以上のように教育目標は, 「学長方針」を対象として定期的に検証すべきところ, 十分に機能していない。

各学部における教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針については, 各教授会・研究科委員会が責任主体となり, 全学的審議機関である教務部委員会において大学全体の視点で確認し, 全学としての整合を保っている。「教務部委員会」では, 各学部教授会に各ポリシーに関連する教学事項の審議の際 (例えば学位授与の方針については学部の『年度計画書』策定時, 教育課程の編成・実施方針については『学則別表改正』等によるカリキュラム検討時, 入学者受入の方針については『入学試験要綱 (募集人員・入学形態)』の検討時など) にあわせて, 毎年度検証し, 変更があった際には, 変更を行った年度の次年度の始めに公開するよう, 教務部長が「教務部委員会」において依頼している。

2013年度には3つのポリシーについて, より分かりやすく表現するため, 全学部表記を確認する等, 恒常的に検証を行っている。2013年11月26日開催教務部委員会において学外の公表は年度の途中で変更したポリシーを都度公表すると「年度の途中で方針が変わった」と誤解される可能性があることから, 変更を行った年度の次年度の始めに公表するという取り扱いとした。【4(1)-1-37~39】。

これら各学部における教育目標や各種方針の検証を踏まえ, 学長は「明治の『教育力』の飛躍に向けた総合的教育改革」(2013年10月23日付け学部長会資料) を学内に公表し, 新たな教育改革の方向性を示した【4(1)-1-40】。

大学院の「教育目標」, 「学位授与方針」及び「教育課程の編成・実施方針」の適切性の検証については, 検証の責任主体は各研究科委員会であり, 研究科委員会で承認された方

針は, 大学院委員会において報告される。これらのポリシーは, 直近においては 2013 年度開催 (2013 年 11 月 11 日開催) の大学院委員会で確認・見直しの発議の上, 検討がなされ, その結果が, 大学院委員会で報告されている。【4(1)-1-41】

2. 点検・評価

(1) 効果が上がっている事項

なし

(2) 改善すべき事項

① 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の学生への認知度が低いこと

「2013 年度明治大学『学修環境に関する学生アンケート』(拡大試行版) 集計結果報告書」では所属学部の教育目標は, 「知っている・だいたい知っている」を併せても 48.5% の認知度となっている。3 つのポリシーにいたっては, 26.6% と極めて低く, 周知方法の改善が必要である。【4(1)-1-33 : 63-71 頁】同アンケートによれば, 教育目標の認知度の高さは「カリキュラムの満足度」「学びの達成感」「学生生活の満足度」と比例しており, 教育目標の認知度の向上は, 学生の学びにとって重要な要素となっている。同アンケートによれば, 認知機会の多くは, 受験前 (大学案内, ホームページ, オープンキャンパス等) に偏っている。

② 全学的な教育目標の検証が十分に行われていないこと

教育目標の達成度, 教育課程全般にわたる検証は, 学長室専門員長が責任主体となる「学長室自己点検・評価報告書」の作成時に「学長スタッフ会議」において行うこととしているが, 現在, 教育目標を明示している「明治大学グランドデザイン 2020」の検証方法が未確定であり, 同点検・評価報告書においても, 課題を明示しているのみで, 全学的な教育目標の検証は行われていない。特に学生が教育目標を達成しているかどうか, 学修面における検証制度はなく, 今後の課題となっている。

3. 将来に向けた発展方策

(1) 効果が上がっている事項

なし

(2) 改善すべき事項

① 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の学生への認知度が低いこと

「2013 年度明治大学『学修環境に関する学生アンケート』(拡大試行版) 集計結果報告書」では, 認知機会の多くは, 受験前 (大学案内, ホームページ, オープンキャンパス等) に

基準4（1）教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

偏っており，入学後の周知について改善が必要である。「学長室自己点検・評価」における教育目標の検証，教育目標の達成度の評価を検討する中で，周知の方策についても検討を開始する。

② 全学的な教育目標の検証が十分に行われていないこと

学長室において「明治大学グランドデザイン 2020」の検証方法について検討を開始するので，この検証制度の検討にあわせて，教育目標の見直し，教育目標を検証するための評価基準の設定，周知方法の検証についても検討する。

4. 根拠資料

4(1)-1-1	大学案内ホームページ「明治大学グランドデザイン 2020—ビジョンと重点施策—：2. 全学のビジョン（1）教育」：URL	m.html
4(1)-1-2	明治大学学則別表 9	4(1)-1-19 2014 年度情報関係科目シラバス，45～49 頁，「情報関係科目実力確認テスト」
4(1)-1-3	明治大学大学院学則別表 4	4(1)-1-20 教育の情報化推進本部ホームページ「教育目標」 URL:http://www.meiji.ac.jp/edu-info/summary.html
4(1)-1-4	教育情報の公表ホームページ「取得可能な学位，卒業・修了必要単位修得数等」 URL:http://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/degree/index.html	4(1)-1-21 資格課程ホームページ「資格課程 課程案内」 URL:http://www.meiji.ac.jp/shikaku/index.html
4(1)-1-5	2014 年度明治大学ガイドブック	4(1)-1-22 2014 年度日本語・日本事情シラバス，3 頁，67 頁「日本語・日本事情科目の履修，成績評価について」「留学生共通日本語：選択日本語について」
4(1)-1-6	2014 年度明治大学大学院ガイドブック 4	4(1)-1-23 各研究科間横断カリキュラムホームページ「研究科間共通科目」及び「プロジェクト系科目」
4(1)-1-7	2014 年度各学部ガイドブック 4	4(1)-1-24 GLOBAL NAVI 2014
4(1)-1-8	2014 年度学部・研究科便覧	4(1)-1-25 2014 年度学部間共通外国語シラバス，1 頁，「外国語教育の実践的な力をつけるために」
4(1)-1-9	2014 年度各学部・研究科シラバス・研究室案内等	4(1)-1-26 明治大学ホームページ「短期海外語学研修」 URL:http://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html
4(1)-1-10	2014 年度時間割表	4(1)-1-27 2013 年度活動計画と現在の状況について（ユビキタスカレッジ運営委員会資料，2013 年 12 月 20 日開催）
4(1)-1-11	3 つのポリシーの表記の確認について（回答）（教務部委員会資料，2013 年 11 月 26 日開催）	4(1)-1-28 明治大学におけるユビキタス教育の取り組み～メディア授業を中心に～（ユビキタス教育推進事務室資料，2013 年 6 月 21 日）
4(1)-1-12	大学院各研究科「入学者受入」「教育課程編成・実施」「学位授与」方針（大学院委員会資料，2013 年 11 月 11 日開催）	4(1)-1-29 明治大学におけるユビキタス教育の取り組み～授業収録・配信を中心に～（ユビキタス教育推進事務室資料，2013 年 10 月 3 日）
4(1)-1-13	教育情報の公表ホームページ「授業科目，授業内容，年間授業計画等」 URL:http://www.meiji.ac.jp/koho/disclosure/class/index.html	4(1)-1-30 e ラーニングを活用した授業（メディア授業）の評価～教育活動における e ラーニングの効果的な活用の実現にむけて～（教育プログラム評価研修会資料，2014 年 2 月 3 日）
4(1)-1-14	学部間共通総合講座 URL:http://www.meiji.ac.jp/edu/gakubukan/index.html	
4(1)-1-15	2014 年度共通語学科目（ロシア語・スペイン語）	
4(1)-1-16	選択体育実技種目一覧	
4(1)-1-17	2014 年度情報関係科目シラバス，33 頁，「情報関係科目の概要」	
4(1)-1-18	2014 年度 ICT ベーシック I / 情報基礎論 I 「アクティブ・ミニマムリクワイアメント」概要 URL:http://www.meiji.ac.jp/edu-info/minimu	

基準4（1）教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

- | | | | |
|-----------|--|-----------|--|
| 4(1)-1-31 | How Meiji University Overcomes e-Learning Challenges in Japan with Mediasite (ユビキタス教育推進事務室資料，2014年4月29日) | 4(1)-1-35 | 2012年度学長室自己点検・評価報告書 |
| 4(1)-1-32 | 各学部入学者受入方針，教育課程編成・実施方針，学位授与方針の変更に關する今後の手続き等について[2012年6月4日付け教務事務室文書] (教務部委員会資料，2013年11月26日開催) | 4(1)-1-36 | 2014年度教育・研究に關する年度計画書 |
| 4(1)-1-33 | 2013年度学修環境に關する学生アンケート:63-71頁 | 4(1)-1-37 | 「3つのポリシー」の表記の確認について(依頼)(2013年6月12日付け教発第24号) |
| 4(1)-1-34 | 2013年度職員採用時研修「明治大学の教学政策」(教学企画事務室資料，2012年10月2日)(抜粋) | 4(1)-1-38 | 教務部委員会議事録(2013年11月26日開催)，報告事項1 |
| | | 4(1)-1-39 | 「3つのポリシー」の表記の確認について(依頼)(2013年7月16日付け院発第51号) |
| | | 4(1)-1-40 | 明治の『教育力』の飛躍に向けた総合的教育改革(学部長会資料，2013年10月23日開催) |
| | | 4(1)-1-41 | 大学院委員会議事録(2013年11月11日開催，議題4) |